

大大阪 レトロ建築まちあるきツアー

きつと見つかる、あなたが好きなレトロビル

主催：大阪商工会議所 大阪市 (財)大阪観光コンベンション協会 共催：大オオサカまち基盤

大正末から昭和初期にかけて、^{だいおおさか}「大大阪」とよばれた時代。大阪には日本一多くの人々が住み、文化が花開き、今でも数多く残る近代建築がこの時代に建設されました。「大大阪レトロ建築まちあるきツアー」では、レトロ建築の魅力を知りぬく大オオサカまち基盤のメンバーらによるご案内で、大阪のビジネス街に数多く現存するレトロ建築を巡ります。ツアー終了後は、レトロビル地下にある有名ベトナムレストランのベトナムコーヒーで一息。さあ、あなたも大大阪時代へタイムスリップしてみませんか？



- 【日 時】 2008年5月24日(土) 13:00~15:00 少雨決行
- 【集 合】 大阪証券取引所 五代友厚像前(地下鉄堺筋線北浜駅1B出口、京阪電鉄北浜駅27号出口すぐ)
- 【解 散】 芝川ビル(地下鉄淀屋橋駅11号出口すぐ)
- 【内 容】 大大阪 レトロ建築まちあるきツアー ビルやガイドのご紹介は裏面を check!
- 大オオサカまち基盤メンバーで大阪市立大学 都市研究プラザ 特任講師 高岡伸一さんや川寄千代さん、田浦紀子さん、大阪案内人 西俣稔さんによるご案内で、大阪・船場のレトロ建築を見学いたします。大阪の礎を築いた五代友厚像を出発し、一路天神橋方面へ。大阪の新アート拠点、「フジハラビル」で名物オーナーのお話を聞いたあとは、レトロビルが集中する北船場まで、まちあるき。オフィス街で異彩を放つレトロビルを見学し、最終目的地芝川ビルまでのコース。
- 【料 金】 2000円 (保険代、お茶代、資料代含む)
- 【定 員】 30名(先着順にて受付) 申込締切5月16日(金)17:00まで
- 【申込 方法】 下欄のお申込用紙にて、大阪商工会議所地域振興部まで
FAX(6944-6330)にてお申込みください
- 【問い合わせ】 大阪商工会議所 地域振興部 堤 TEL:06-6944-6323 FAX:06-6944-6330
E-mail:chishin@osaka.cci.or.jp

【大阪商工会議所 地域振興部 堤行き FAX:6944-6330】番号をお間違えのないようお願い致します。

氏 名	
ご 連 絡 先	〒 - 住所:
	TEL FAX
	e-mail 携帯番号(当日の緊急連絡先)
申 込 み	5月24日(土) 13:00 (参加費 おひとり様あたり2,000円)
	名申込

ご記入頂いた情報は、主催者からの各種情報提供に使用いたします。なお申し込み後、ご入金方法等について大阪商工会議所よりご連絡いたします。

大大阪 レトロ建築まちあるきツアー たとえばこんなビルを巡ります

(文章出典：『大大阪モダン建築』監修 橋爪紳也 編著 高岡伸一、三木学 青幻舎、2007.)

フジハラビル 建築年：1923(大正12)年 設計者：不明



個性派オーナーには事欠かない大阪近代建築のなかでも、フジハラビルとそのオーナー、藤原英祐さんの関係はとりわけユニークだ。藤原さんは1988年(昭和63)年に先代からこの建物を譲り受けた。荒れるがままに放っておいたビルだったが、見知らぬ人々がふらりとやってきては、「このビルが好きです。大切にしてください」と話していく。次第に心を動かされた藤原さんは、ビルを再生して使い続けることを決意。そして最初にはじめたことは、自ら手作業でビルを直すことだった。床や壁を塗り直し、照明を付け替え、4階にはサンルーフをつくった。何でも自分でやらないと気が済まなかったが、外壁の補修だけは所轄の許可が下りず、泣く泣く専門業者に依頼したという。そして藤原さんは、次第にビルをアートに開放していく。4階と地下にギャラリーを設け、演劇や落語、音楽会やファッションショーなども催されるようになった。フジハラビルを訪れると、建物の内部外部といわず、至るところにアート作品が飾られている。自分の作品を飾って欲しいと、作家自らが持ち込んでくることもあるらしい。きっと藤原さんの取り組みそのものがアーティスト達には「アート」と映るのだろう。

芝川ビル 建築年：1927(昭和2)年 設計者：(設計及び構造設計) 澁谷五郎 (意匠設計) 本間乙彦 表面写真も芝川ビル



金融や保険関係のビルが立ち並ぶオフィス街の一角で、芝川ビルは圧倒的な存在感を醸しだしている。ビルを建てた芝川家は唐物貿易を営んだ豪商として知られ、江戸時代からここに屋敷を構えていた。1923年、関東大震災の惨状を目のあたりにした四代目当主・芝川又四郎が「火事、地震に強い建物を」と新しいビルの建設を決める。しかし完成した建築には耐久性だけでなく、竜山石(たつやまいし)をふんだんに用いた、マヤ・インカ文明を思わせる彫りの深い濃密な装飾が施された。又四郎の手記を読むと「私の趣味」で決めたと書いてある。時はまさにアール・デコの時代、海外洋行して建築を巡った又四郎が現地で見聞きしたのが、あるいは1923年東京に建てられたF・L・ライトの帝国ホテルの影響なのか、いずれにしても他では見られない、ユニークな建築が生み出された。今は会計事務所などが多く入居するテナントビルだが、実は戦争期まで、ここは花嫁学校だった。「芝蘭社(しらんしゃ)家政学園」と名付けられた学校は女子短期大学のはしりともいわれ、芝川ビルは関西の有名女子校を卒業したお嬢さんの通う、自由でハイカラな校舎だった。洋裁・和裁にはじまって習字、生け花、お茶など、地下には本格的な調理設備を備えた実習室もある、当時まだ珍しい洋食メニューの教わるのが出来たらしい。綺麗に着飾った「いとほん」達は授業を終えると正面玄関を出て、モダンなショーウィンドウの並ぶ心齋橋へ。皆で「心ぶら」を楽しんだそうだ。

レトロ建築まちあるきツアーガイド

～皆さんを大大阪に誘う、4人の案内人のご紹介～

高岡 伸一(たかおか・しんいち)

大阪の近代建築を活用するグループ『大オオサカまち基盤(大バン)』メンバー。高岡伸一建築設計事務所主宰。大阪市立大学都市研究プラザ特任講師。1970年大阪市生まれ。大阪大学工学部建築工学科卒業、同大学院工学研究科修士課程修了。様々なかたちで大阪の近代建築の利活用に関わる他、船場アートカフェ事務局としてアートプログラムの企画・運営に携わる。『大阪アートカレイドスコープ2007』の企画・制作協力及び会場構成、『船場アートカフェ』の内装デザインなど。著書に『大大阪モダン建築』(共編著、青幻舎)。

川崎 千代(かわさき・ちよ)、田浦 紀子(たうら・のりこ)

大阪の近代建築を活用するグループ『大オオサカまち基盤(大バン)』メンバー。街に華やかさや豊かさを与える近代建築の積極的な活用を提案。各種イベントや近代建築の調査などで中心的な役割を果たしている。

西俣 稔(にしまた・みのる)

自らを大阪案内人と名乗る歴史研究者。1994年ごろガイドを始める。北区の「町歩きの会」に参加し、「今まで育った町にもこれだけの歴史があったのか」と感動。それに触発され1年間の勉強期間後、大阪の素晴らしいところをいろんな人に知ってもらいたいとの思いからガイドを始める。案内できるコースは約20コース。サービス精神旺盛で聞く人を絶対に飽きさせない大阪歴史エンターテイナー。